鹿児島アリーナリニューアル
基本計画

令和６年６月

鹿児島市観光交流局スポーツ課

目次

1　鹿児島アリーナの現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
（1）鹿児島アリーナの現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
①沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
②施設の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
③メインアリーナ座席レイアウトパターン・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
④利用者数の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
⑤過去に開催された大規模なイベント・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
（2）鹿児島アリーナの課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

2　施設リニューアルの基本的考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
（1）施設リニューアルの必要性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
（2）施設リニューアルの目指す方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
（3）新Ｂ１基準（抜粋）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

3　アリーナリニューアルの構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
（1）施設リニューアルの考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
①座席の改修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
②トイレの改修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
③諸室等の再配置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
④その他施設の改修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
（2）エンターテインメント設備リニューアルの考え方・・・・・・・・・・・・・・12

4　アリーナリニューアルのイメージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
（1）スイート席・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
（2）ＬＥＤビジョンシステム等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
（3）デジタルサイネージシステム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

5　アリーナリニューアルのスケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

１ 鹿児島アリーナの現状と課題

（１）鹿児島アリーナの現状

① 沿革

鹿児島アリーナは平成４年１０月に市政１００周年記念事業の一環として、旧鹿児島刑務所跡地に開館しました。

スポーツを“する”、“みる”という二つの機能を併せ持ち、施設は古代ローマのコロシアム（円形競技場）をイメージしており、旧刑務所の石造の正門は、歴史的・文化財的建造物を残してほしいとの市民運動により残すことになり、現在では鹿児島アリーナを印象付ける一部になっています。

メインアリーナは、国際規模のスポーツ大会の開催、コンサートや講演、展示会などのイベントにも利用でき、サブアリーナ、武道場（柔道、剣道、空手道等）、弓道場、トレーニング室、ＥＸスタジオなど、市民が気軽にスポーツやレクリエーションを楽しめる施設になっています。

鹿児島アリーナは､｢燃ゆる感動かごしま国体･大会｣､｢感動は無限大　南部九州総体 2019｣などの全国・九州・県大会規模のスポーツ大会だけでなく、有名アーティストによるコンサート、各種コンベンションの開催など、県内におけるスポーツ・コンベンションの中心的な施設として稼働しています。

② 施設の概要

開 館 年 月	平成４年１０月
所　在　地	鹿児島市永吉一丁目３０番１号
構　　造	鉄骨鉄筋コンクリート造等　地下１階　地上３階建
敷 地 面 積	３５，１１４．３４㎡
延 床 面 積	２９，０２３．３１㎡
利 用 時 間	８：３０～２１：００
休　館　日	１２月２９日～１月３日
座席レイアウトパターン	５パターン
最大座席数	約５，３００席（通常時：約 2,800 席）
駐 車 台 数	約２３０台
ネーミングライツ	西原商会アリーナ ※令和２年４月１日より導入

③ メインアリーナ座席レイアウトパターン

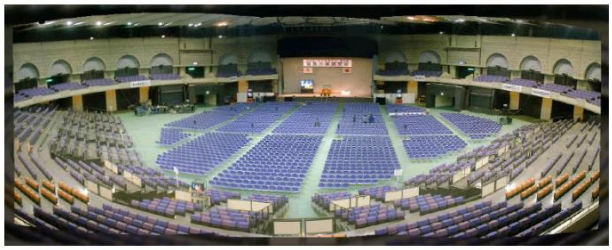
【パターン１】約４，２００席≪１Ｆ固定席 ２，８８８席、２Ｆ固定席 １，３１２席≫

【パターン２】約３，５００席≪１Ｆ固定席 ２，２０４席、２Ｆ固定席 １，３１２席≫

【パターン３】約２，８００席 ≪１Ｆ固定席 １，０７０席、１Ｆスライド席 ５９０席、
２Ｆ固定席 １，３１２席≫

【パターン４】約５，０００席 ≪１Ｆ固定席 ２，２９４席、２Ｆ固定席 １，０００席、
スタッキングチェア※1 １，６６２席≫

【パターン５】約５，３００席 ≪１Ｆ固定席 １，８３８席、２Ｆ固定席 ８０８席、
スタッキングチェア ２，７００席≫



※1 積み重ねて収納できる椅子

④ 利用者数の推移

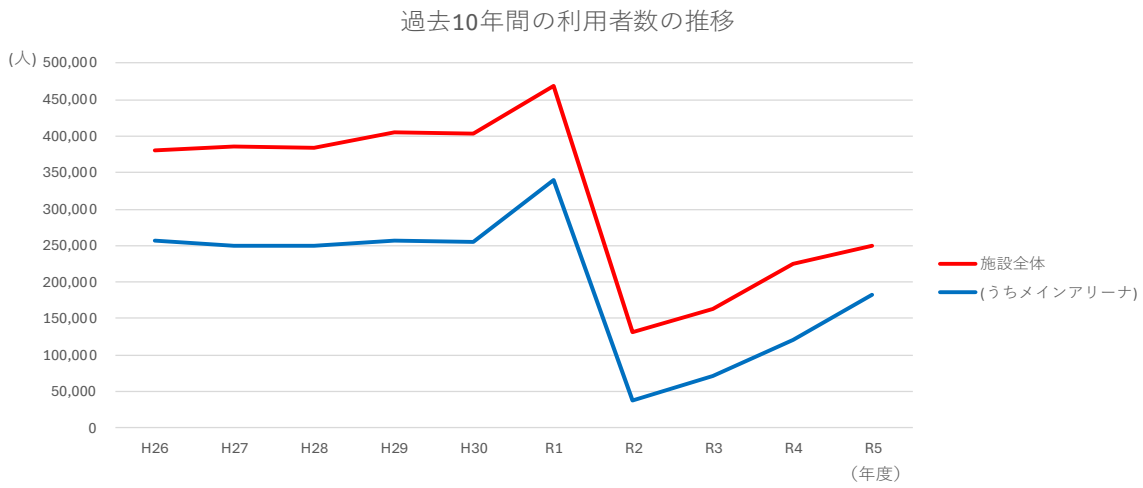
鹿児島アリーナの利用者数は、平成３０年度までは４０万人前後で推移していましたが、令和元年度に本県で３７年ぶりに開催された全国高等学校総合体育大会「感動は無限大　南部九州総体 2019」総合開会式が実施されるなど、過去最高の利用者数を記録しています。

令和２年度以降は新型コロナウイルス感染症のため、臨時休館や各種イベント等の開催自粛の影響で落ち込んだものの、徐々に回復傾向を示しています。

（過去10年間の利用者数の推移）　（人）

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
施設全体	379, 810	386, 034	384, 893	404, 948	403, 063	468, 273	131, 641	162, 932	224, 651	249, 419
（うちメインアリーナ）	256, 529	249, 029	249, 628	257, 501	255, 055	340, 502	37, 490	71, 470	120, 829	183, 028

※Ｒ５については１月末現在



⑤ 過去に開催された大規模なイベント

鹿児島アリーナでは、全国・九州大会規模のスポーツ大会、有名アーティストのコンサート、企業が開催するイベント、「鹿児島レブナイズ（以下、「レブナイズ」という）」のホーム試合など、年間を通してイベント等が開催されている状況です。

（3, 000人を超える利用者があった主なイベント）

年度	件数	利用者数	主　な　イ　ベ　ン　ト
H26	24 件	181, 010 人	ディズニーオンアイス、長渕剛コンサート、マーチングバンド九州大会　等
H27	21 件	201, 750 人	生活文化フェスティバル、プリンスアイスワールド、関ジャニコンサート　等
H28	21 件	158, 260 人	KTSすこやかふれあいフェスティバル、嵐コンサート、ＡＩコンサート、企業展示会　等
H29	19 件	148, 820 人	大相撲鹿児島場所、マーチングバンド九州大会、新日本プロレス　等
H30	21 件	157, 500 人	全日本実業団卓球大会、長渕剛コンサート、スポーツ推進委員全国大会　等
R1	28 件	280, 271 人	インターハイ総合開会式及び４競技、ハンドメイド展示会、B'zコンサート　等
R2	2 件	6, 400 人	企業展示会、家づくりフェア
R3	3 件	11, 150 人	松田聖子コンサート、ハンドメイド展示会、企業展示会
R4	7 件	36, 696 人	ＡＩコンサート、少林寺流全国空手道選手権　等
R5	11 件	117, 597 人	燃ゆる感動かごしま国体・大会（５競技）、全国高等学校総合文化祭、企業展示会　等

（２）鹿児島アリーナ（メインアリーナ）の課題

・施設内のトイレの多くが和式タイプである。

・座席が布張りであるため、利用頻度が高い席は“ほつれ”や、“シミ”があり、また、座席番号破損があるなどの状況にある。

・入口扉に破れが見られることや、扉同士の隙間から光が漏れることにより、競技等に支障をきたしている。

・冷房の効きが悪く、冷房の効果が出るまでに時間がかかる。また、温度調整が出来ない。

・利用団体が控室及び会議室等として使用できる部屋が少ない。

・エレベーターはサブアリーナ棟事務所前の１基のみで、車イス利用者がメインアリーナ２階に移動する際は、エレベーターで２階に上り、屋外通路を経てメインアリーナに入るルートとなっている。

・移動観覧席は、多様な座席パターンで各種イベントに対応できるが、移動観覧席下に座席を移動させるための機器類が収納されているため、試合やイベントを観戦しながらの飲食を禁止している。

・照明が白熱電球であるため、プロスポーツの試合時、瞬時に照明を暗転させるという演出ができない。ただし令和６年度から予定している「特定天井改修工事」時に照明のＬＥＤ化を行い対応する予定である。

・イベント開催時等の荷物搬入口が狭いため、荷物の搬出入に時間を要することや、搬入機材の大きさに制限がある。

【参考】

・座席の状況

２ 施設リニューアルの基本的考え方

（１）施設リニューアルの必要性

鹿児島アリーナは、地域の住民にとって愛着のある地域のシンボルとしての一面を有しているとともに、集客力を有する“する”スポーツ、“みる”スポーツの価値や潜在力を最大化させるための舞台であり、定期的に数千人を集めるイベントを開催できる集客施設です。

一方で、平成４年１０月の開館から３０年以上が経過し、使用用途が多様化したことなどにより、館内設備の老朽化が進んでおります。こういった状況を踏まえ、主目的のスポーツを“する”アリーナへ進化発展させ、スポーツ・エンターテインメントを“みる”アリーナへと施設の本来目的を継承しつつ、新たな市民・来場者ニーズへの対応のために転換を図る必要があります。

これらを踏まえ、鹿児島アリーナの交流拠点機能としての役割をブラッシュアップし、スポーツをする人・みる人、様々な目的を持つ人々に親しまれる施設への機能強化を図ることを目指します。

（２）施設リニューアルの目指す方向性

鹿児島アリーナは、本市所管のスポーツ施設の中で最大規模の施設であり、

- 各種競技の全国・九州・県大会の実施などの競技スポーツの開催
- 一般市民がスポーツに触れ・楽しむイベントの開催
- コンサート等の興行

など多種多様なイベント実施のための利用があります。今回の改修はこのような大規模イベントが更に開催しやすくなる環境を整えることを目的とします。

一方、鹿児島アリーナは、今季Ｂ３リーグに参戦し、今後Ｂ２リーグ、Ｂ１リーグへの昇格を目指すレブナイズのホームアリーナであり、また、令和６年９月開幕予定のハンドボール新プロリーグに参入予定である「ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング BLUE SAKUYA」もホームアリーナ化を予定しており、プロ選手の躍動と、観客の応援が一体となるための演出を行える施設を目指す必要があります。

特にプロバスケットボールリーグは、厳格な施設基準が存在し、今後鹿児島レブナイズが上位リーグを目指すうえで、施設としての基準を満たす必要があります。

鹿児島アリーナは、外観とメインアリーナ天井のデザインが非常に特徴的であり、訪れる方すべてに感動を与えうるポテンシャルを秘めた施設であるため、既存の雰囲気を残しながら各種課題を克服し、地方都市におけるアリーナ再生のモデルケースとなるようなリニューアルを検討していきます。

（３）新Ｂ１基準（抜粋）

座席	入場可能数	・５，０００席以上の観客席数を有する
	座席	・すべての座席から試合コートが見渡せる ・すべての座席の幅は、１席当たり４００㎜以上ある ・すべての座席は個席である（独立したイスで設置） ・すべての座席に「背もたれ」が付いている
	スイート	・飲食や談話等を楽しむことができる原則、居室化されたスペース・席とそれとは別に試合を観戦する座席が併設配置されたスペース ・ホームゲーム開催時には入場可能数の２％以上が利用可能な席
	ラウンジ	・試合観戦する座席を備え、それとは別に飲食や談話するスペースやエリア ・ラウンジは（スイートと合計して）入場可能数の５％以上が利用できるエリア・スペース
試合アリーナ	フロア床材	・試合コートの床材は「木製」が望ましい
	照明設備	・「コートエリア」全体を均一に照らし、その平均照度が１，４００ルクス以上を確保
	音響設備	・すべてのエリア（観客席、コートエリアなどメインアリーナ全体）で明瞭に、また適切な音量で音が聞こえる音響設備を常設設備として備えている
	空調設備	・適切なアリーナ内温度（冷房季：２６℃、暖房季：２１℃を目安）調整が可能な常設の空調設備を備えている
	大型映像設備	・映像および文字を高精度で表示でき、すべての観客から視認可能な位置に設置された大型映像設備を常設設備として備えている 《推奨要件》 大型映像装置の形式は天吊りビジョンやリボンビジョン等を用いる事
付帯設備	トイレ	・同時に利用可能な規模でトイレ設備がある （入場可能数５，０００人までは３％とし、５，０００人を超える人数に関しては推奨２．５％、必須２％）
更衣室	チーム用更衣室	・チームが使用する更衣室（ロッカールーム）は、チーム全体の人数に相応する規模の広さが確保でき、軽食等が提供できる机等が配備されている ・更衣室（ロッカールーム）には、シャワールーム、トイレが室内に常設されている

３ アリーナリニューアルの構成

（１）施設リニューアルの考え方

・新Ｂ１基準を踏まえた対応を行うとともに、老朽化した既存施設や、時代のニーズに追い付いていない各種設備について、メインアリーナを中心とした改修の検討を行う。

① 座席の改修

メインアリーナの移動観覧席は、５パターンのシートレイアウトが可能となっているが、通常は「パターン３」に配置されており、イベント主催者からのパターン３以外へのレイアウト変更の依頼は年間数件となっています。一方、コンサート等の主催者からは、パターン３ではステージの「見切れ席※2」が多数発生するため、ステージを正面から見られる席を拡大したいとの要望があります。

また「１－（２）鹿児島アリーナの課題」でも述べたとおり、移動観覧席においては、座席下に座席を移動させるための機器類が収納されており、観客が移動観覧席上で飲み物をこぼした際の水分による機器等の不具合に備え、試合やイベントを観戦しながらの飲食を禁止しています。それに加え、開館当初より設置してある座席は布張りで、観客の使用頻度の高い席については“ほつれ”や、“シミ”が全体的に発生している状況です。

このような状況を改善し、新Ｂ１基準を満たす「５，０００席以上」の確保や「スイート席」等の設置を目指します。

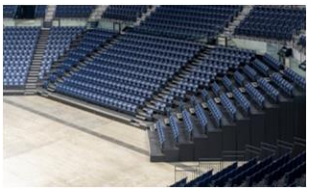
※2　ステージや演出の一部が見えない、もしくは見えにくい席

【座席イメージ】

Ⅰ 移動観覧席

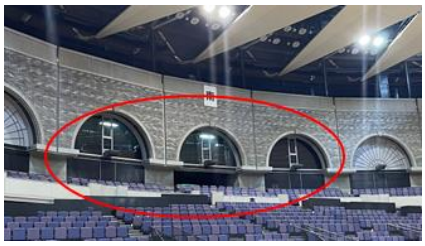
≪収納時≫

≪展開時≫



Ⅱ 座席例

Ⅲ スイート席



スイート席設置予定場所
（現 音響操作室を改修）

≪スイート席例≫

② トイレの改修

鹿児島アリーナのトイレは、大便器、小便器、洗面化粧台ともに、部分的に水栓金具等の更新を行っているが、ほぼ竣工当時のままとなっており、大便器、小便器、洗面ボール、洗面カウンター、床及び壁面は時代と共に陳腐化している。また、大便器については温水洗浄便座が無く、利用者からも温水洗浄便座への改修要望が多く寄せられています。

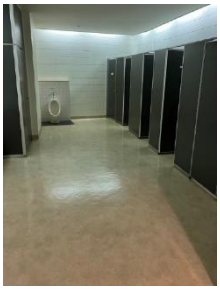
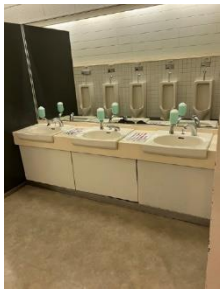
館内の衛生設備は陳腐化・老朽化が進んでおり、今回のリニューアルで目指すスポーツを“する”、“みる”アリーナの実現に向け、現状を踏まえた対応が必要となります。

今回の改修においては「鹿児島県福祉のまちづくり条例」も参考に、車いす利用者への対応を行うことは勿論のこと、既存トイレブースが狭隘であるため、ブースの再レイアウトを検討する必要があります。

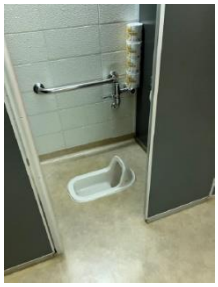
なお新Ｂ１基準による配置数は入場可能数が「５，０００人を超える人数に関しては推奨２．５％、必須２％」となっており、現在の配置数は施設全体で１４８基あるため、数が大幅に減少することが無いよう再レイアウト等の検討を行います。

【既存トイレの状況】

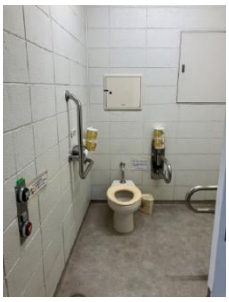
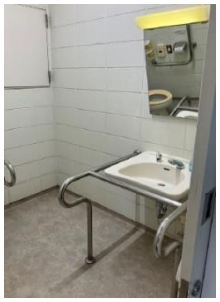
≪男性トイレ、女性トイレ、洗面化粧台≫

≪洋式トイレ、和式トイレ≫



≪車いすトイレ≫

③ 諸室等の再配置

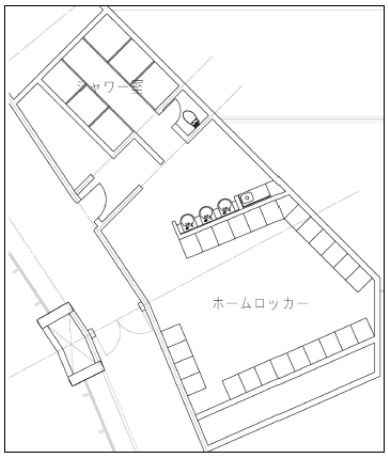
メインアリーナの更衣室及び会議室等は設置場所が集中しており、コンパクトにまとまっているが、トイレと同様に、諸室も陳腐化が進んでいることから、今回のリニューアルで目指す、スポーツを“する”、“みる”アリーナの実現に向け、他自治体アリーナの諸室等の状況も参考にしながら対応する必要があります。

a)更衣室

２つの更衣室が近接して配置されているため、ホームチーム用更衣室とアウェイチーム用更衣室を離れた場所に設置し､試合前後の選手同士の接触が最小限となるようにします。その際、更衣室からコートへは別々の入口から入退場することで、試合の演出を行いやすいようにします。

また、更衣室へは個人用ロッカー、シャワー室等の設置を行います。

≪ホームチーム用更衣室(案)≫

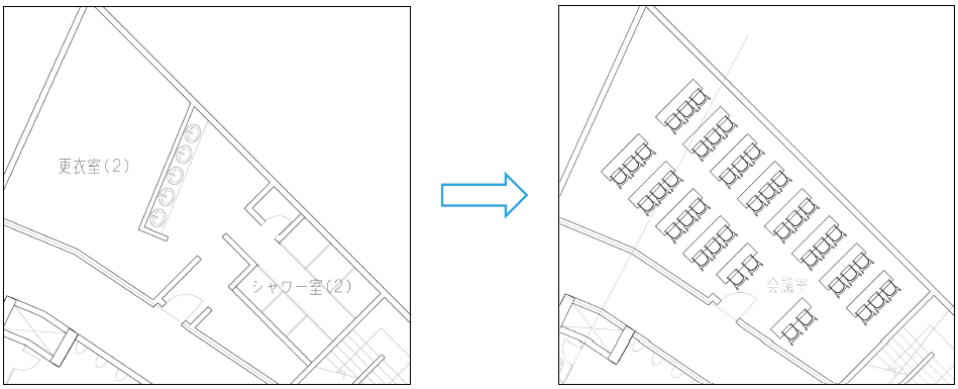


≪個人用ロッカー(例)≫

b)会議室等

メインアリーナには会議を行えるような十分な広さの諸室が不足しているため、１階にある既存の更衣室のうち１室を会議室に転用します。また、２階にある未利用の空間に会議が行える諸室を設けます。

≪会議室への転用(案)≫



④ その他施設の改修

a) メインアリーナへのエレベーター設置等

鹿児島アリーナのエレベーターは、サブアリーナ棟の事務所前に１基のみ設置され、令和５年度に改修工事を行っています。

一方、メインアリーナにはエレベーターが設置されておらず、車イス利用者がメインアリーナ２階に行く際は、事務所前のエレベーターで２階に上り、一度館外へ出てからメインアリーナに入る形となっています。

また、２階各ゲート入口は５センチメートルの段差があり、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」（バリアフリー法）による段差解消は２センチメートル以下の段差とされているため、段差の解消、又はスロープの設置など対応が必要となっています。

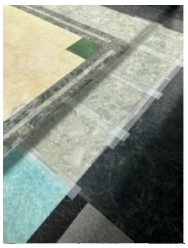
今回の改修においては、メインアリーナのバリアフリー化を行い、誰でも利用しやすいアリーナを目指し検討を行います。

b) メインアリーナ廊下

メインアリーナ廊下床のビニルタイルは、意匠性のある仕上げとなっているが、利用者が多い１階の床は剥がれた部分が多く、養生テープ等を用いて随時補修を行っている。

今回の改修においては、メンテナンスが行いやすい床への改修を含め検討を行います。

【１階廊下の状況】



c) 大道具搬入口の整備

コンサート等の開催時の大道具を搬入する際に利用しているゲートについて、搬入口が狭く段差があることから、開口部を広くするとともに、メインアリーナ床面と同レベルにすることで荷物搬入の効率化を図り、大規模イベント等の開催に際し選ばれるアリーナを目指します。

d) ラウンジの整備

来場される方がメインアリーナ内でゆっくりと飲食や談話が出来るスペースやエリアが設けられていないことから、メインアリーナ回廊にラウンジを整備することを目指します。

新Ｂ１基準に対応した施設への改修を行うとともに、鹿児島アリーナを利用する人（選手、演者、一般利用者等）や観客が快適に施設を利用できるよう、時代のニーズに追い付いていない各種設備についても改修を検討します。

（２）エンターテインメント設備リニューアルの考え方

・エンターテインメント設備の継続性とシステム全体の段階的な成長を見据えた「進化するアリーナ」という考え方に基づき、それを実現するための広い視野を持ったシステム設計思想の観点で設備の導入検討を行う。

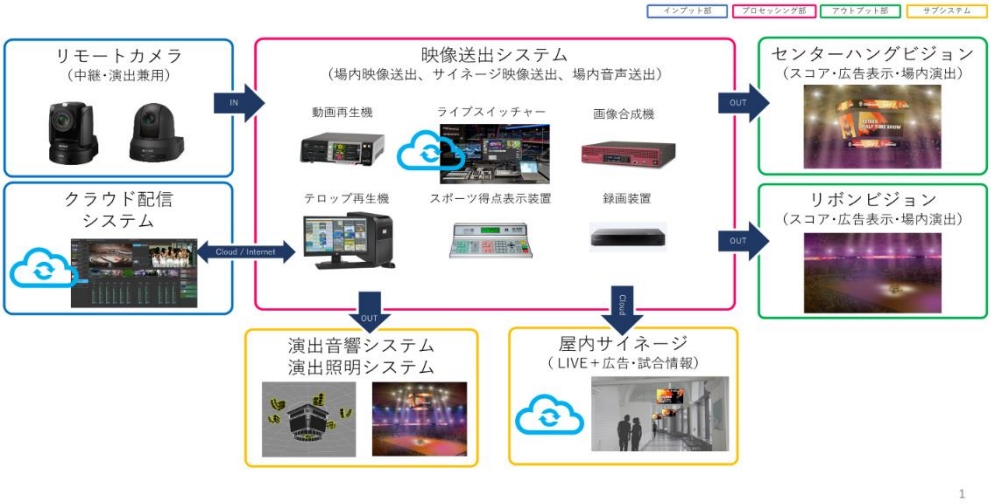
・将来的に予測されるトレンド（運用の効率化や省力化など含む）と新Ｂ１基準を踏まえ、既存施設の特長を生かしたエンターテインメント設備を導入したケースとして、国内においてベンチマーク（指標）とされる設備の導入検討を行う。

・鹿児島市民やアリーナをホームとするチームのファン、ビジターや観光客も含めた市外からの来場者に「行ってみたい」と感じ、「また来たい」と思っていただける“みる”を体験するアリーナを実現するために最適な設備の導入検討を行う。

≪エンターテインメント設備の定義≫

No.	設備名称	内容	凡例
1	カメラシステム	試合の状況や選手･観客を撮影するためのシステム。	
2	映像送出システム	映像演出に合わせて音響、照明、サイネージといったサブシステムと連動した統合的な演出を行うためのシステム。エンターテインメント設備の中核をなす。	
3	クラウド配信システム	カメラシステムで撮影された映像を、クラウド上にある中継システムを介して、インターネット上のプラットフォームから配信をするためのシステム。	
4	LED ビジョンシステム	LED パネルを使用した様々な映像を表示するためのシステム。センターハングビジョンやリボンビジョンが代表的。	
5	デジタルサイネージシステム	液晶ディスプレイや LED パネルを使って映像や情報を表示するためのシステム。	
6	演出音響システム	館内アナウンス用途とは別に、演出に必要な音響を担うシステム。ラインアレイスピーカーが代表的。	
7	演出照明システム	競技用や観客用途とは別に、演出に必要な照明を担うシステム。ムービングライトが代表的。	

≪設備全体概念図≫



インプット部	映像の入力側であるカメラ設備など
	・リモートカメラ（中継・演出兼用） ・クラウド※3配信システム
プロセッシング部	作成済みの映像コンテンツの再生や、カメラで撮影した映像にテロップなどの映像効果を付与し、エンターテインメント設備の中核であり制御をつかさどる映像送出システム
	・映像送出システム （場内映像送出、サイネージ映像送出、場内音声送出）
アウトプット部	最終的に映像を表示するセンターハングビジョンやリボンビジョンなど
	・センターハングビジョン（スコア、広告表示、場内演出） ・リボンビジョン（スコア、広告表示、場内演出）　など
サブシステム	デジタルサイネージシステムや演出音響システム、演出照明システム
	・演出音響システム・演出照明システム ・アリーナ内サイネージ（LIVE+広告、試合情報） ・アリーナ外サイネージ（インフォメーション）　など

※3 サーバーなどのハードウェアや IT 機器、ファイルソフトなどのソフトウェアをインターネット上で保有し、システムを構築・管理する形態。必要な時に必要な分だけ利用ができる。

≪既存他施設と本基本計画との比較≫

No.	設備名称	鹿児島アリーナ	既存の他施設設備	基本計画
1	カメラシステム	なし	システムカメラ （都度持ち込み）	リモートカメラ （常設）
2	映像送出システム	なし	オンプレミス※4型 （常設）	オンプレミス型＋ クラウド型 ⇒ハイブリッド型※5
3	クラウド配信システム	なし	中継車 （都度用意）	クラウド型 （都度使用）
4	LEDビジョンシステム	なし	センターハング （常設）	センターハング＋ リボンビジョン （常設）
5	デジタルサイネージシステム	なし	オンプレミス型 （常設）	クラウド型 （年間契約）
6	演出音響システム	なし	アレースピーカー （常設）	アレースピーカー （常設）
7	演出照明システム	なし	ムービングライト ピンスポットなど	ムービングライト ピンスポットなど

※4 サーバーなどのハードウェアやIT機器、ファイルソフトなどのソフトウェアを物理的に施設で保有し、システムを構築・管理する形態。独立したシステムとして構築されるためセキュリティレベルを高く保つことができる。

※5 システムを構成する要素のうち、施設内で抱える必要のあるものはオンプレミスで、クラウドに任せられるものはクラウド上で構築する形態。オンプレミスとクラウドのメリットを最大限に生かすことができる。

【既存の他施設設備との主な変化点】

・インプット部　中継などの映像制作会社がシステムカメラを持ち込むことが多いが、プロスポーツ興行以外の市民利用の試合やイベントの映像配信などに最適なリモートカメラを常設で設置。

・プロセッシング部　すべての機器を施設側に常設で設置をしていたが、映像の切り替え機能を担うライブスイッチャーにクラウド型の選択も可能な機器を採用するなどし、アリーナ以外の遠隔地からもスイッチング（映像の切り替え）が実現可能。

・サブシステム　デジタルサイネージシステムでクラウド型を採用し、特定の端末以外からもコンテンツの差し替えや設定変更が可能。

将来的に予測されるトレンド（運用の効率化や省力化など含む）と新Ｂ１基準を踏まえ、それに対応したシステムに即した機器、設備を採用し、来場者の心を掴み、魅了するアリーナを目指す。

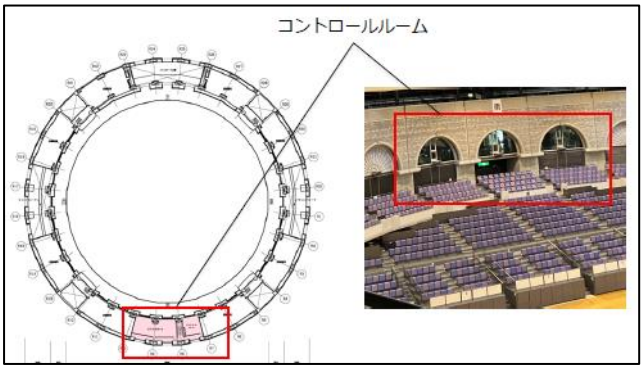
4 アリーナリニューアルのイメージ

（1）スイート席

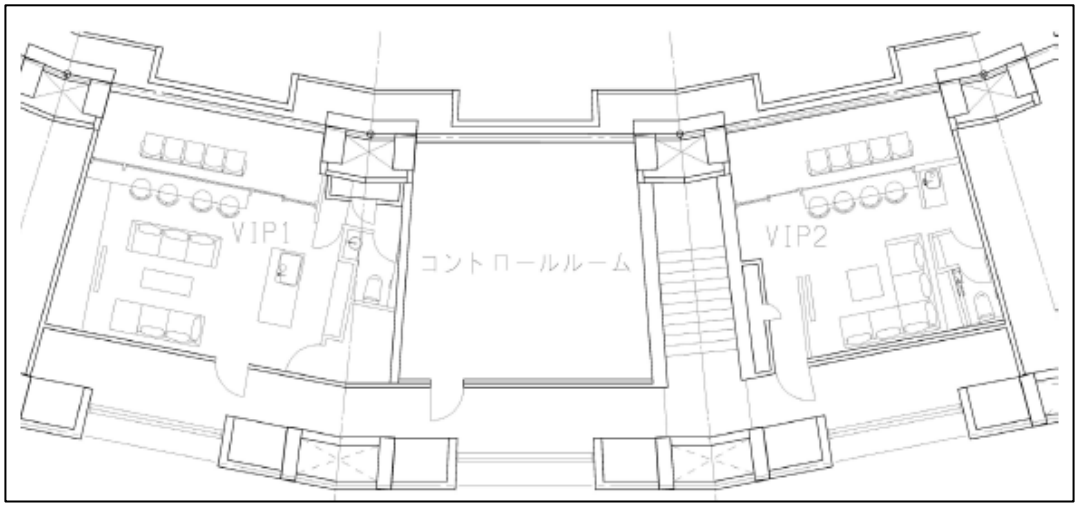
・現コントロールルームをスイート席へ転用。

・アリーナ側壁面は全面ガラス張りで個室ながらも解放感があり、バルコニー席を設置して更なる臨場感が楽しめる。

≪スイート席位置(現コントロールルーム)≫



≪スイート席配置(案)≫



≪スイート席からの眺望≫

（２）ＬＥＤビジョンシステム等

【センターハングビジョン】

・アリーナ中心部の天井から吊り下げる４面のビジョンで、映像を中心として音響や照明と連動させ、場内の一体感のある演出の中心的な役割を担う。

・試合中の選手寄りカメラの映像や、スローリプレイ、試合のスコアなどの情報、または、予め作成済みの演出コンテンツを中心に表示する。試合中以外には、スポンサーロゴや館内での注意事項などアナウンスが必要な情報を表示する。

・ビジョンサイズを標準的な１６：９の画面サイズとすることで、テレビ用のスポンサー広告などをそのまま表示できる。

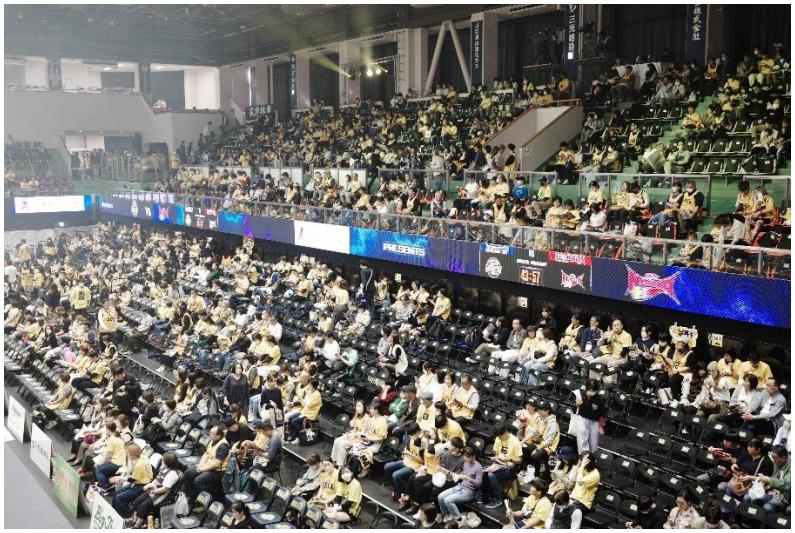
≪設置イメージ≫

【リボンビジョン】

・アリーナの側面に設置するビジョンで、演出時のコンテンツやスポンサーロゴなどを主に表示する。

・アリーナ内を周回するように設置し、映像を中心とした音響や照明との連動による場内の一体感を盛り上げる演出に効果を発揮する。

≪設置イメージ≫



【演出音響システム】

・場内のアナウンスだけでなく、映像や照明との連動による一体感のある音響でより迫力のある演出効果を生み出すことができる。

【演出照明システム】

・映像や音響と連動した、効果的な照明演出により、場内の一体感・臨場感を高める効果を生み出すことができる。

（３）デジタルサイネージシステム

・市民や来場者への試合や催し物などの案内を表示するデジタルサイネージを設置する。
・鶴尾橋側と城西通り側に車で目視できるような形で設置する。
・混雑が予想される日時を予め周知することで、周辺の交通状況の緩和も期待する。

≪鶴尾橋側 計画(案)≫

≪城西通り側 計画(案)≫

５ アリーナリニューアルのスケジュール

令和８年秋に開幕するＢリーグ２０２６－２７シーズンには、新Ｂ１基準を満たすアリーナとしてシーズンを迎えることを目標に事業を推進します。なお、リニューアルの工事内容によっては、スケジュール等に変更の可能性があります。